

平成30年3月吉日
船橋希望学舎
世田谷区立船橋希望中学校
校長 菅野茂男
学校関係者評価委員会事務局

平成29年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 「絆を確かに、豊かな人間関係を創る」について

- (1) すべての教育活動において、教員からの一方向的な指導ではなく、生徒に考えさせることを大切にしてきた結果、学校関係者評価生徒用アンケートの「先生は生徒の意欲を大切にした指導をしてくれる」の項目において、肯定的な評価が83%で前年度よりも高い結果となった。また、「先生はいつも熱心に指導してくれる」の項目においても肯定的な評価が88%と高い結果となった。しかし、「先生はわたしの話をよく聞いてくれる」は肯定的な評価が76%で、前年度と横ばいであるが、「わからない」という回答が11%もあった。次年度も引き続き、生徒一人ひとりの理解を徹底し、個々の特性を生かし、自己肯定感を高める指導を推進する。
- (2) 学校関係者評価保護者用アンケートの「本校の教職員は教育活動に熱心に取り組んでいる」の肯定的な評価は89%と高い結果であり、「とても思う」が32%で前年度よりも8%上昇した。否定的な評価が4%はまだ課題ではあるが、寄り添った指導により保護者との信頼関係が構築されていると考えられる。

2 「キャリア教育の充実」について

- (1) キャリア教育の系統性を見直し、各段階で取り組む内容を明確にした。教育課程に位置付け、計画的に進めた結果、学校関係者評価生徒・保護者用両アンケートの全項目において、肯定的な評価が増加した。特に、生徒用アンケートの「将来の生き方や進路について考えさせられる授業がある」の肯定的な評価は87%と高く、前年度より21%上昇した。中でも1年生の肯定的な評価が81%と高いのは、卒業後の進路だけでなく、将来を見通したキャリア学習の成果である。
- (2) 学校関係者評価保護者用アンケートの「本校の教職員は親身になって進路の相談にのってくれる」の1年生の肯定的な評価が64%であり、前年度より16%上昇した。1年生から面談等で進路について話題にしていることが評価につながっていると考えられる。次年度も「進路指導は生き方指導」として生徒・保護者とともに考え、キャリア教育を充実させていく。

3 「新たな教育活動の推進と理解」について

- (1) 学校関係者評価生徒用アンケートの「先生は黒板の書き方やプリントなどを工夫し、わかりやすい指導をしている」の肯定的な評価が90%と高い結果となった。新学習指導要領の内容を意識し、「主体的・協働的な学習」をテーマに研究を継続している成果である。
- (2) 学校関係者評価生徒用アンケートの「私は友だちなど他の人たちを認め合い、励まし合おうとする気持ちがある」の肯定的な評価が88%と高い結果となった。教科及び特別活動と関連付けた道徳教育を推進し、また、人権尊重教育推進校として、生徒の人権感覚や人権意識を高め、思いやりや寛容な心などを大切にしている成果である。
- (3) 学校関係者評価生徒用アンケートの「私は自分の健康に関心をもち、体力の向上を心がけている」の肯定的な評価が70%であった。本校がスーパークリティカルスクールであるとの認識を定着させ、自らの体力についての課題を自覚し、向上に努める意識をさらに高めていく必要がある。

4 「世田谷9年教育『船橋希望学舎』の活動」について

- (1) 学校関係者評価保護者用アンケートの「船橋希望学舎の小学校・中学校の連携や交流活動が行われている」の肯定的な評価が75%、生徒用アンケートの「船橋希望学舎の小学校との交流が活発である」の肯定的な評価が39%と共に前年度を下回る結果となった。教員やPTAの連携は密に行っているが、生徒の児童との交流機会は一部の生徒にとどまっているのが現状である。地域で違うときにあいさつ交わすなど、船橋希望学舎という集団の一員として誰でもできる交流から始めていくことが大切である。